

西洋医学を受け続けていては、病気が進行すると  
気がつき、松本医院を受診された方の手記

「ステロイドの後遺症がなくなるまで  
(喘息・ヘルペス途中経過)」 谷口 美子 76歳

2011年1月15日

松本先生どうもありがとうございました。松本先生は命の恩人です。松本医院に行くまでは「もう本当に死ぬかも知れない」と思い、身の整理を始めていました。

昨年4月の初めから体調を崩したため、あちこちの病医院を受診し、肺機能、レントゲン、心電図、肝臓の超音波、脳のMRI、血液の検査を受けました。血液検査では、甲状腺からマイコプラズマ、百日咳まで調べました。めまいや倦怠感、痺れを感じた時には、メニエール病、脳梗塞、SIADH（抗利尿ホルモン不適合分泌症候群）等と病名を言われ、薬を処方されましたが、副作用ばかり出て苦しんでいました。無理やりに咳を止めるような麻薬中枢性鎮咳薬（リン酸ジヒドロコデイン）を飲んでいた時は、咳が少なく身体が少し楽でしたが、「いつまでもこんな事をしては駄目だ」と思って薬を止め、11月の初旬、大学病院に行きました。

大学病院に行くまでにかかった医療機関は開業医→総合病院→他の開業医でしたが、どこへ行っても、咳については「風邪です」としか言ってもらえませんでした。精神安定剤を処方され、「これを飲めば楽になる」と言われたこともありましたが、貰った薬は一度も飲まずに捨てました。

大学病院でこれまでの経過を話したところ、アレルギー性喘息と言われ、やっと納得することができました。そしてステロイドの吸入療法を始めましたが、病気はどんどん進行し、咳はひどくなるばかりでした。体力を消耗し、体重が39kgになった時、私は西洋医学の限界を肌で感じ取りました。

東洋医学について何も知らない私でしたが、スカパーで放送していた漢方医の出て来るドラマや『中華医薬』という番組が好きでよく観ていましたので、その時に考えました、「もう漢方の先生に頼る以外生きる道はない」と。

すぐに漢方のお医者さんにかかっていたことがある友人に電話で聞いてみたり、娘にインターネットで探してもらったりして、松本医院を見つけ、松本先

生の所へ行く事に決めました。

初めて松本医院で受診したのは、12月22日の水曜日でした。先生は問診票と私の顔を見て少し話をした後、「あなたの病気はヘルペスです。今までのめまいや倦怠感、痺れといった症状は全部ヘルペスが原因です」とおっしゃいました。その日私は、今までどこの病医院でも言われた事のない病名を告げられ、却って安心しました。「やっと本当の病気が分かった！もしかしたら治るかも知れない」と、胸に希望の火が灯りました。

そして「あなたの病気は絶対に僕が治してあげるから心配しないで」と元気づけ、手をさしのべて握手を求められました。病院の先生と握手をしたのはこれが初めてでした。私は「ここに来て本当に良かった」と感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、採血をして2日後に来るように言われ、薬局で抗ヘルペスウイルス薬ベルクスロンと煎じ薬を受け取り、帰宅しました。

初めて飲む煎じ薬はとても良い匂いで、2日間の服用で劇的に回復し、咳は3分の1くらいにまで減少しました。そのため、2日後のクリスマスイブに私は笑顔で診察室に入る事ができました。

胸の骨が折れたかと思うほど激しかった咳が、お正月には1日2回煎じ薬を服用するだけでほとんど出なくなり、ヘルペスウイルスに起因するめまいや倦怠感、痺れの症状もお正月には無くなりました。今は、1日1回の服用で十分になっています。夜はぐっすり眠れるようになりました。近いうちに自信をもって煎じ薬を止められるでしょう。久しぶりに体重計に乗ってみると40kgまで回復していました。

私は一昨年の子宮癌検診で経膈直腸脱を指摘されるまで、風邪もひかず、アレルギー性のもの以外ほとんど病気をした事がなかったので、体に自信があり、病人の気持ちなど考えた事もなかったのですが、今回はとても身にしみて本当につらかったです。死はこんなに突然おそってくるものかと感じていました。

今は咳もほとんど出なくなりましたが、松本先生の所へ行き着くまでに、あまりにも遠まわりをしてしまったので、ステロイドの後遺症がなくなるまでには、まだまだ時間がかかると思います。今後とも、どうかよろしく願い申し上げます。